

普及活動検討会実施報告書

(美里) 農業改良普及センター
実施月日：令和7年9月3日(水)
実施場所：美里農業改良普及センター

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開
2	北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化
3	堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

2 検討委員の構成

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市 町 村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
土地利用型 農業法人の 経営戦略と 持続的経営 の展開	4.3	・組合員構成を考えると早期の組織再編等がありうる法人なので、それに合わせた経営計画を立ててほしい。 ・代表をサポートする人や作業従事者の確保育成が必要と思われる。 ・年度毎の設備投資等の目標が見えており、通年雇用に向けた作物の導入も安定的な収益確保に良いと思う。 ・将来ビジョンの実現への取組は着実に進められているが、数年後に構成員のリタイアが考えられるので、ハローワーク等での求人など組織・経営体制の強化を期待する。 ・土地利用型作物の作期分散や労力軽減が図られていると思う。管内には集落営農法人が多いので、継続支援が必要である。 ・サツマイモの生分解マルチの実証は作業の省力化に有効なので、引き続き指導をお願いする。	・専門家を交えた県農業経営・就農支援センター「経営戦略会議」での検討結果も踏まえながら関係機関と協力し、米価上昇など状況の変化に対応した将来ビジョン及び経営計画の見直し、組織体制の強化、人材の確保育成に向けて継続支援していきます。 ・通年雇用には周年作業と収入が必要ですが、穀類乾燥調製施設の導入により水稻収穫作業の効率化に加えて冬期の大豆乾燥調製作業が創出されました。さらに園芸作物の拡大により作業と収入を確保し、通年雇用が可能な体制が整備されるよう支援を続けて行きます。 ・サツマイモの生分解マルチの省力効果や収量への影響を調査してまいります。
北浦梨産地 活性化に向	4.3	・販売実績や生産経費をもとにした農業所得や所得率等の見える化は大変有意義である。作物別のモデル収支や所得率を作成してほしい。	・販売実績や生産経費を基に収支や作業時間を整理し、農業所得や所得率の見える化に

けた、ICT活用による栽培の見える化		・ 数字によって栽培環境が見える化し、部会で共有することは良い思う。樹勢など数値化が可能になればさらに良くなると思います。 ・ ICTの活用により害虫の発生状況が早期に確認できることは素晴らしい。他の作物でも普及してほしい。 ・ 栽培環境や病虫害発生が見える化は、地域性を考慮しながらデータ分析に基づいた対策が実施できることです。 ・ 栽培マニュアル構築のため、支援の継続が必要です。 ・ 若手生産者の情報交換や交流が図られたことは良いことです。今後もデータを活用しながら産地の維持、活性化に向けた支援をお願いします。	取り組み、町やJAと協力しながらモデル収支の作成や所得率の試算に取り組んでまいります。 ・ 栽培環境や害虫発生状況の見える化につきましては、凍霜害防止対策や効果的な防除等の技術をスマートフォンのアプリ等で情報発信し、適正な栽培管理や適期防除を支援していきます。
肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の改善	4.5	・ 小麦や大豆等の収量が減っており、堆肥を活用した取り組みは必要である。 ・ 堆肥を活用した収量向上の成果は出ているので、各地域への普及を図ってほしい。 ・ 堆肥散布による土壌改善、地力増進により収量品質が向上したので、化成肥料等の価格高騰もあり、他の作物への堆肥利用も調査してほしい。 ・ 耕畜連携、地域資源の堆肥活用について3年間取り組み、成果を生産者と共有することで、堆肥利用の拡大が進むことを期待します。 ・ 3年間の実証試験で排水性等の土壌改良や収量向上の成果が生産者の実感と併せて得られている。 ・ 追肥一発肥料は有効と思われるので、他地域への普及に期待する。	・ 小麦への3月堆肥散布の土壌改善や増収効果が3年間の実証で確認されましたので、生産者への情報提供を行い、町やJAと協力しながら普及に努めていきます。 ・ 肥料・資材価格が高騰する中、施肥方法の改善も含めて、町やJAとともに堆肥の利用拡大を推進していきます。 ・ 追肥一発肥料については本年度の試験で増収効果が確認されましたので、メーカーと協力して効果を確認しながら波及を図って行きます。
重点活動 土地利用型園芸作物（玉ねぎ） 地域農業担い手の経営発展（法人合併）	4.3	・ 転作で麦・大豆以外の高収益作物がないので玉ねぎに期待しています。 ・ 玉ねぎ直播栽培のコスト削減、排水対策、施肥設計など工夫が必要です。 ・ 玉ねぎの播種時期と稲刈りは重なるが、品薄時期への出荷で良いと思う。 ・ 機械化体系による玉ねぎの直播栽培は法人等の大規模経営体に合っているので、気候変動への対応、品種選定など継続支援が必要である。 ・ 玉ねぎの直播栽培普及に向け、スマート農機の活用などセミナー開催による周知に期待します。 ・ 法人合併は資産の処分、税金等お金の問題が大変だと思いますが、今後も合併問題が増えてくると思いますのでよろしくをお願いします。 ・ 経営内容が違う法人の合併について、合意形成がポイントと思う。 ・ 農事組合法人の合併は全国的にも例が少なく、東北では初の試みとなるので順調に進むことを期待します。	・ たまねぎの直播栽培については、農機具メーカーや試験場とも連携しながらコスト削減効果やスマート農機の活用を検討し、生産者への周知に努めて行きます。 ・ 法人合併に向けては関係機関と連携して実現に向けた支援を継続してまいります。